

学習院大学史料館

辻邦生展

[学習院大学史料館第24回特別展]

会 期……2004年11月8日(月)～12月11日(土)

開館時間……[平日] 12:00～17:00

[土曜日] 10:00～12:00

※日曜日・11月23日(火・祝日)は休館

会 場……学習院大学史料館展示室(北2号館1階)

協 力……新潮社



は じ め に

『西行花伝』『背教者ユリアヌス』などの歴史小説や、朝日新聞での連載小説『雲の宴』で知られる作家 辻邦生は、文学部教授としての15年間を含め、約35年間学習院大学で教鞭を執った。

学習院大学史料館では、氏の生前より執筆活動に関わる資料の寄託を受け、整理を進めている。

折りしも今年6月から『辻邦生全集』(全20巻、新潮社)が刊行され、これを受けて当館では自筆原稿、執筆資料、創作ノートや、学習院大学勤務時代の資料を紹介することにした。

書くことと教えることに情熱を傾け続けたその足跡をご覧いただきたいと思う。



● 自宅書斎

I 書くこと 教えること

●大学行事予定表

辻邦生(1925~1999)自身がエッセイの中で回想しているように、彼は子供の頃から文章を書くことが好きであった。当時の作文が小学校・中学校の文集にのこされている。最初の小説「遠い園生」は旧制松本高等学校の寮雑誌『思誠』に発表された。生涯の友人となる作家 北杜夫との出会いは、この寮時代のことである。

初めて非常勤講師として学習院大学に勤めたのは31歳の時、以後35年間を過ごした目白キャンパスの様子はエッセイや小説の中で描写されている。

大学の行事予定表には試験や教授会などとともに作品の執筆計画も書き加えられており、多忙な日常を知ることができる。

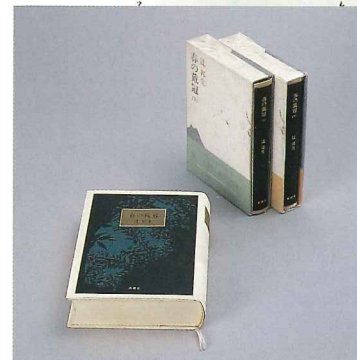
II 作品が出来るまで

—「春の戴冠」を題材として—

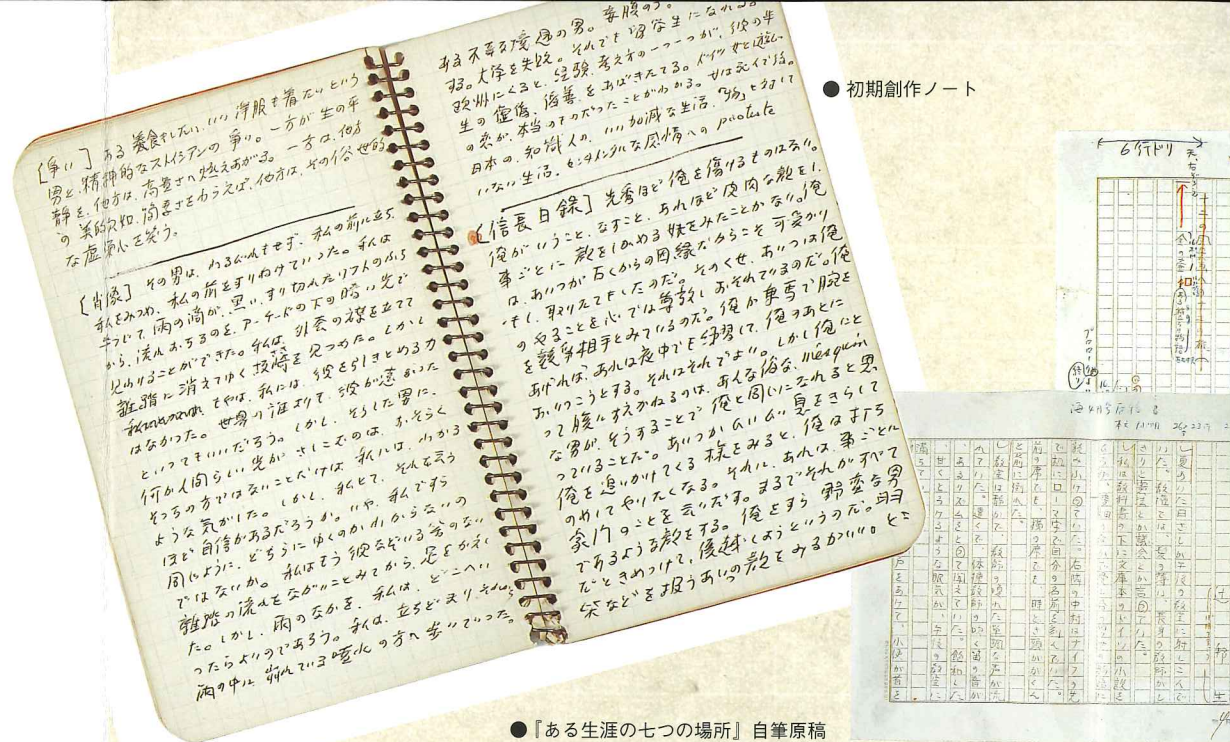
執筆活動に関する資料には様々なものがある。

ここでは「春の戴冠」を例に、これらの資料を創作過程の順に、執筆資料、創作ノート、草稿、原稿、校正刷、掲載雑誌、単行本と並べてみることで、辻邦生がどのようにして作品をつくり上げていったのかを見たい。

「春の戴冠」は雑誌『新潮』1972(昭和47)年1月号~1976年10月号に連載された。旧制松本高等学校時代「『マニフィカトの聖母』を恋することによって、ポティチュエリの絵に恋をした」(『辻邦生歴史小説集成』第7巻、岩波書店)という彼の想いが、20数年の時を経て形を変え、結実した作品である。



●『春の戴冠』上・下(1977年、新潮社)
●『春の戴冠』(1996年、新潮社)



III 書く中で生み出されたもの

辻邦生関係資料には、多くの歴史史料、古地図、学術論文などが含まれている。これら執筆資料を緻密に分析することは、「直観的にとらえたある想念があり、それが何か可視的な姿をとって外に現れる」(『辻邦生歴史小説集成』第12巻)ための過程でもあった。

もうひとつの特徴として、彼が創作ノートと呼んでいた手帳と構想メモの存在がある。創作ノートは、「作品を書きおえた後では、下手なすじ書き程度の意味しか持たないが、作品に取りかかる前には一挙に全体を掴むという、あの電光石火の早業のデッサンの意味を持っていた」(前出)。

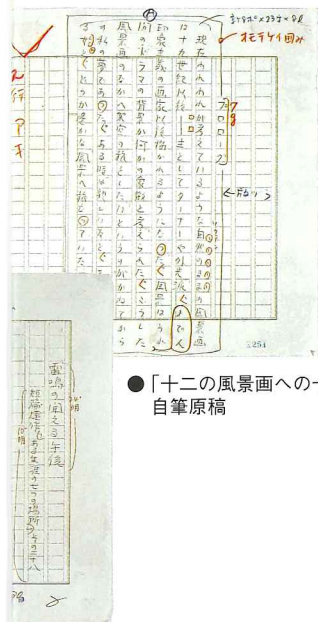
V 作品の数々

歴史小説や純文学の印象が強い辻邦生であるが、映画評や演劇評、小説論など様々な種類の作品をのこしている。エッセイも数多く書いており、『信濃毎日新聞』で週1回連載していたコラムは、「死ぬまで続ける」との言葉通り、急逝の直前まで10年間続いた。

ここではジャンルごとに作品を展示し、辻邦生の多面的な創作活動を紹介する。



●『私の映画手帳』



●「十二の風景画への十二の旅」
自筆原稿

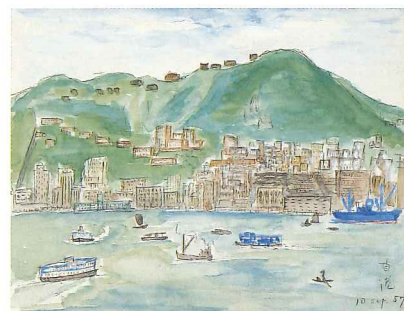
IV 書くこと 描くこと

1957(昭和32)年フランス政府保護留学生として渡仏した際のスケッチブックと日記には、船室から覗いた海上や寄港先の様子が記されている。

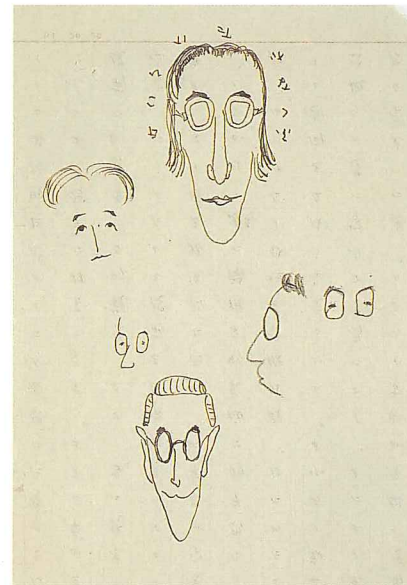
創作ノートにも、多くの風景画や自筆の地図を見ることができる。

また、家族との連絡書きやメモ類には、イラストがしばしば登場する。同僚教授たちの似顔絵もユーモラスに描かれている。

書くことも描くことも、辻邦生にとっては自分の想いをとどめるための大切な手段であった。



●スケッチブック



●同僚教授イラスト



●『西行花伝』(1995年、新潮社)



(1988年、文芸春秋)



●『薔薇の沈黙 - リルケ論の試み』(2000年、筑摩書房)

●『辻邦生全集』全20巻(2004年～、新潮社)



写真提供・新潮社



●辻邦生6歳
手作りの「マンガ映写箱」
とともに

・辻邦生関係資料について

辻邦生関係資料は、自筆原稿・創作ノート・日記・書簡・著書など約2万件から成り、1986年以降継続的に学習院大学史料館へ寄託されています。

これらの資料を積極的に活用し、文学研究に資するため、当館では2000年に学外委員・学内委員・史料館委員から構成される「辻邦生関係資料 管理・運営のための小委員会」を設立し、整理と活用について検討しています。

■本展の開催にあたり、次の方々にご協力をいただきました。

深く感謝の意を表します。

(敬称略)

辻 佐保子

栗野彰子 笠松 巖 菅野昭正 北村真澄 新潮社
高橋英夫 中条省平 平山規子 堀内ゆかり

撮 影 : 高久良一 宮寺昭男(表紙・中扉)
文 責 : 生田享子

第24回特別展 辻邦生展
会期 2004年11月8日(月)～12月11日(土)
編集・発行 学習院大学史料館
発行年月 2004年11月

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

Gakushuin University Museum of History